

千葉県連海外登山<中国四川省：四姑娘山ブルーポピー・ウォッチング>

四姉妹の長女「大姑娘山(タークーニャンシャン)5025m」山頂に立つ！

安彦 秀夫（東葛山の会）

期 日：2019年7月6日（土）～15日（月・祝）<9泊10日>

参加者：東葛山の会8名、松戸山の会8名、ちば山の会1名、

千葉こまくさハイキングクラブ1名、船橋勤労者山の会1名

合計19名（男性4名、女性15名）

今回の海外トレッキングの主な目的を、次のように設定しました。

- ① 大姑娘山山頂に立ち周囲の山々の展望を楽しむ
- ② ブルーポピーを観賞する
- ③ 臥龍パンダセンターでジャイアントパンダに会う
- ④ 四川省地方劇『川劇（変面）』を鑑賞する
- ⑤ 成都市内を観光する（武侯祠博物館、杜甫草堂など）
- ⑥ 四川料理を堪能する（加えて、ビールも）など

上記全てを県連の仲間と一緒に体感できた苦しくも大満喫の10日間でした。

参加者の皆さんはいかがでしたでしょうか？



四姑娘山・三姑娘山・二姑娘山をバックに

<1> ブルーポピーと5000m峰

主な目的の中でも、特に楽しみにしていたことは、いろいろな色の『ブルーポピー』とのお対面と大姑娘山山頂からの周囲の山々の大展望を楽しむことでした。

C1 アタックキャンプの周囲の足場の悪い濡れた岩場で、ブルーポピーを目にした時は、小雨の降り続く中でしたが、夢中でカメラに収めました。

また、翌日早朝、ヘッドランプを点けて急峻な岩場を登り尾根に出ましたが、相変わらず霧が立ち込め展望はゼロでした。霧の中の登頂になるのでは…と半ば諦めていたところ、急に明るくなり霧がスーッと消え、四姑娘山などが目の前に現れました。

思わず声を上げて、先行する皆んに教えました。

山頂からの 360 度の大展望を、これまでの疲れはどこかに行ってしまったのか、17 名全員が夢中で楽しみました。ヤッターゾー！

ベースキャンプに戻り、現地旅行会社が登頂のお祝いに準備してくれた缶ビールで乾杯！旨い！冷たい川で冷やしていました。笑顔がこぼれる一瞬でした。

<2> 高所順応

成都（約 500m）から一気にバスで登山口の町：日隆（約 3200m）に移動したため、頭が重く、ちょっと動くだけで息苦しく感じるほどでした。翌日、裏山ハイキングをすると、それまでのいやな感じはなくなり、高所順応ができていたのでは…と感じました。

老牛園子ベースキャンプ（約 3800m）の 2 日目、好天の中、大海子 3836m と花海子 3846m への高所順応ハイクでは、富士山より高いところでの足の踏み場もないほどの高山植物と湖を堪能し、2 日後の山頂アタックに備えました。

大海子をバックに



C1 アタックキャンプへ上がる途中で女性 1 名が体調を崩し、酸素ボンベを利用しましたが回復が思わしくなく、翌朝ベースキャンプに下りました。また、男性 1 名もアタック時に体調を崩し下りざるを得ませんでした。

<3> テント生活・食事とトイレ事情

傾斜地にテントが設置されており、目が覚めると入り口側に身体が移動していました。また、風雨が時々強く、テント側面から雨が内部に吹き込み、びしょびしょになり隣のテントに移動したり、天井から雨漏りがするので、フライシートを二重にセットして急場をしのぐ…という場面もありました。

一方、食事、特に夕食は、私たち日本人の好みに合うもので温かく美味しくいただきました。コックにその旨を伝えたら、笑顔が返ってきました。

トイレは、トイレ用テントの中の地面に穴（幅 30cm×長さ 60cm×深さ 50cm 程度）が掘ってあり、済んだ後は準備されている土をかぶせ、紙は黒いビニール袋に入れる…というものでした。穴が満タンになったら違うところに穴を掘るようでした。これを繰り返していったらどのようにになってしまうのかな…と思わず考え、複雑な気持ちになりました。

バスでの移動中のトイレは、有料の所があり 1 元（約 17 円）でした。個室には扉がなく、金隠しもなく、紙もなく、入り口側を見ながら利用するそうです。ホテルやレストランなどのトイレは、日本と変わりなく、ご安心を…。

<4> 私の失敗談①② + α

- ① デジカメの SD カードが容量オーバー！さあどうしよう。運よく予備のカードを持っていた人から借り、パンダを沢山撮ることができました。
- ② 帰国時に、スーツケースにスマホ用予備バッテリーを入れっぱなしにしており、係官に取り出しを指示されました。参加者の皆さんに再三注意をしていたにもかかわらず、持ってきたことを完全に忘れていました。
- ③ 帰国時に、スーツケースの重量オーバーで中身の一部取り出しを指示された人もいたようです。（1 個 23 kg までで、23 kg 以内を 2 個まで OK！）



<5> 山行を終えて

大姑娘山アタック時の現地サポート体制（人数）、高山病やキャンプ地での水や食事の不安などを抱えて成田を出発しましたが、手配をしていただきました『株ワイルド・ナビゲーション』及び現地の『四川大地探検旅行社』、そして蘇さんを始めとした現地スタッフや参加者の皆さんの協力により、大過なく目的を全て体験でき無事帰国できたことは、企画者として最大の喜びです。

多岐にわたるご協力をいただきました関係者そして参加者の皆様に感謝します。ありがとうございました。謝謝！（2019/7/22/Mon.）